

若手研究者コラムリレー

一階 千絵 (いっかい ちえ)



プロフィール

群馬県立女子大学文学部 准教授
日本体育学会の専門領域: スポーツ人類学(体育史にも所属しています)

大阪府生まれ
2000年 早稲田大学人間科学部 卒業
2006年 早稲田大学大学院人間科学研究科単位取得退学 博士(人間科学)
早稲田大学、福岡女子大学、名古屋女子大学短期大学部を経て現職
日本体育学会では研究者委員会の委員に加え、スポーツ人類学専門領域事務局も務めております。

E-mail: ikkai@mail.gpwu.ac.jp



群馬大学の先生方、技術補佐員さんと

わたしの研究

女の子が取っ組み合いをしたっていいじゃないか

私は学部学生の頃から、日本の民族スポーツの一つである相撲を行う女性をとりまく文化的事象について研究しています。

昨年春にマスコミをにぎわせた「土俵上女人禁制問題」に象徴されるように、日本の相撲は男性のものだというイメージを持たれているかもしれません。しかし、それは日本相撲協会という興行団体の行う「大相撲」の取り決めであり相撲というスポーツそのものの取り決めではないということ、女性も相撲を行ってきたことを、これまでの研究で取り上げてきました。

(主な事例)

- ・見世物や興行としての女相撲
- ・民俗的行事や民俗芸能としての女相撲
- ・競技スポーツとしての女子相撲

現在は、相撲を女性にも行いやすくするべく提唱された(しかし著作物の中でしか確認されず定着もしていない)「アウトゲーム」という競技を知り、なぜ相撲を女性向けに改変しようとしたのか、その背景になった女性観や格闘技観(精神文化)、技の特徴(技術文化)、ルールの改変(社会文化)などに興味を持っています。

女性の格闘技(相撲)の研究を通じて、スポーツの持つ文化的な性質の多様さ、豊かさ、人間の「一筋縄ではいかなさ」をみていきたい、そしてその研究から得たものをいかに大学での教育に生かすかということを考えているところです。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

一階千絵「民族スポーツにおける女子格闘技の競技化について—「アウトゲーム」を事例として—」: 寒川恒夫研究室編『スポーツ人類学の世界〜早稲田の窓から〜』虹色社、2019年 所収
※本書に関するお問い合わせは一階までお願いいたします。

必読

(なんでも帳)

【体育学会での嬉しい出会い】

昨年の日本体育学会第69回大会にて、学会本部企画シンポジウム「若手研究者が体育学の学びとキャリアパスを考える: 私が研究の道へ進んだ理由」のシンポジストとして登壇いたしました。ですので、私の来歴などはJ-stageにて公開されているシンポジウムの報告(<https://doi.org/10.20693/jspehss.symposium.S4-1>)もご覧いただけますとよくお分かりになるかと思います。

その中で、院生時代から母校の助手をしていた頃にかけて、総合型地域スポーツクラブにて少年少女レスリングのアシスタントコーチとして指導していたことをお話いたしました。

さて、そのシンポジウムが終了した後、一人の院生さんが私のところにやってきました。なんとその院生さんは、かつてそのクラブに入っていて私にレスリングを教わっていたというのです。名前を聞いてすぐに思い出したのは、当時小学校低学年のあどけない顔。その子が立派に成長し、専門領域は違えど同じ体育学を学ぶ院生になって目の前に現れるとは、そして私のことを覚えてくれたとは思いませんでした。

人の縁とは、思わぬところでつながっているものです。若手研究者委員会一同、その縁の広がりをつくっていくための取り組みに邁進してまいりますので、会員の皆様のお力添えをよろしく願っています。

○次回のコラムリレーは帝京科学大学の「岩沼聡一朗」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました!

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで知りたい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taiikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

